

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：ごみ問題と3R・循環型社会形成 ILAS Seminar :Waste Management Issues and Material Cycles Society Developments by 3R Strategy of Reduce, Reuse and Recycling	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Agency for Health, Safety and Environment Professor,HIRAI YASUHIRO Agency for Health, Safety and Environment Associate Professor,YANO JUNYA		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester	Quota (Freshman)	6 (6)
Target year	1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Mon.5
Classroom	Meeting room 231, 2F, Research Bldg. No 2 (Main Campus)			Language of instruction	Japanese
Keyword	循環型社会 / ごみ問題 / リサイクル / 資源循環 / 環境				
[Overview and purpose of the course]					
<p>「ごみ」は、世界中の人間、誰もが出して生きていると言っても過言ではないでしょう。しかし、我々（少なくとも一般市民の方々は）、どれだけ、「ごみ」のことを知っているのでしょうか？このゼミでは、ごみ（廃棄物）や廃棄物問題を科学的に捉えると同時に、その解決に向けた「3R」（リデュース・リユース・リサイクル）の考え方、それらを通じて実現しようとする「循環型社会」に関して、知見を深めることを目的とします。</p> <p>今年度は、プラスチック問題や食品ロス問題などに焦点をあてる予定です。</p>					
[Course objectives]					
<ul style="list-style-type: none"> ・環境関連資料の原著論文を自らの力量で読解できるようになる。 ・ごみ問題・循環型社会形成に関連して、既往研究でまだ明らかにされていない課題を見出すことができるようになる。 ・課題に対しての仮説を設定し、その仮説を立証するための調査・解析計画を立案・実施することを経験する。 					
[Course schedule and contents]					
<p>ごみに関する基礎的知見（初回～2回目程度） まず、授業担当者からの序論により、廃棄物問題の構造と循環型社会形成への方向性を理解します。また、今年度取り組むトピックをいくつか紹介し、各自の関心に沿って、2グループ（1グループ3人）に班分けします。</p> <p>文献の読み込み・発表（3回目程度以降～7回目程度） 対象とするテーマに関する学術論文や報告書を読み込み、理解を深めます。これを踏まえて、課題を設定し、仮説を立案、これを立証する調査・解析方法を検討します。論文の内容紹介から、仮説の紹介、仮説立証に向けた今後の調査計画をグループでとりまとめて、発表します。</p> <p>調査・解析の実施・発表（8回目程度～14回目） 設定した仮説に関し、フィールドワークやデータ解析を行い、結果をとりまとめて発表します。</p>					
Continue to ILASセミナー：ごみ問題と3R・循環型社会形成(2)					

2名の教員の役割と授業の進め方

本科目の授業開講時（月曜5限）には、原則として2名の教員が出席し、基礎的知見の提供や課題の考察の方向性について助言します。また、具体的な調査内容は、人数やテーマ、関心に応じて設定します。授業担当の教員とともに先輩のゼミ生が作業（パソコンやソフト等の利用から文献検索、発表資料作成の方法まで）の支援も行います。

過去の調査テーマ例

- ・京大吉田キャンパスにおけるプラスチックごみの排出実態の調査（ごみ組成調査）と分別掲示の改善の試行・効果検証
- ・京都市内スーパーにおける省包装・裸売りの実態調査（店頭調査）
- ・自治体のプラスチック資源化量に及ぼす、ごみ処理施策（ごみ袋有料化、資源ごみ回収頻度）や地域特性の影響の検討（パネルデータ分析）
- ・家庭内での食品ロス発生量に及ぼす、食品購入・保存・調理・廃棄行動と意識の影響の調査（ネットアンケート調査、統計解析）

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

レポート課題を課し、その報告レジュメとプレゼンテーションにより評価します。平常点としての出席と参加の状況も考慮します。レポート課題と平常点の評価はほぼ1対1の予定です。

[Textbooks]

Not used

必要に応じて研究論文等を配布します。

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

物質循環に関連する原著論文を読解することや関連した復習に取り組むことをお奨めします。

[Other information (office hours, etc.)]

授業の主たる担当者は、京都大学の環境や廃棄物の管理に携わっている環境管理部門の教員です。学内実務に関わりながら、社会システム研究を進めていますので、その研究室活動にも参加可能となるよう配慮します。